

週刊 京都民報

2021年
10月24日(日)

第3003号

京都民報社 発行所 〒604-0003 京都市中京区衣通通奥川上川吉田ビル ☎075(256)0901 ☎075(223)2033 kyoto-minpo@nifty.com 京都民報Web www.kyoto-minpo.net

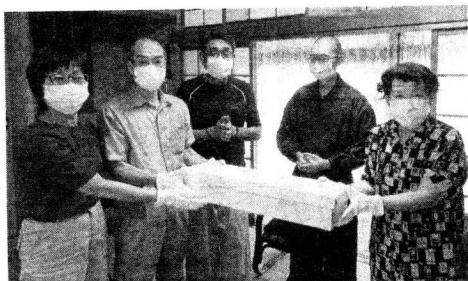
和算書『塵劫記』吉田光由

350年遠忌に向け 位牌奉納

右京区・二尊院で顕彰団体、子孫ら



新たにつくられた
光由の位牌



(前列右から)位牌を手渡す久下さん、
吉田省二さん、妻の和子さん、(後列左
から)羽生田実隆住職、光昭副住職

日本で発展した数学「和算」の創始者で、江戸期にベストセラーとなった和算書『塵劫記』(1627年)の著者・吉田光由(1598-1672)が来年没後350年を迎えます。菩提寺・二尊院に位牌

がなかったことから顕彰団体が遺族らの協力を得て10日、奉納しました。350年遠忌の法要は11月7日、同寺で行われます。

位牌は高さ55センチ、幅20センチ、奥行き10センチ。上部に宝珠と屋根が付き、三面に金箔が張られています。表には法名「顕機圓哲信士」と家紋が刻まれ、裏面には、光由が医師・周庵の三男で、名を与七、七兵衛、久庵と改め、『塵劫記』を刊行したことなどが書かれています。

「悠久会」の3団体。10日には、光由の子孫で、吉田・角倉一族の吉田省二さんと妻の和子さん、悠久会の久下五十鈴理事が羽生田実隆住職に手渡ししました。悠久会の金久孝喜、中井保行両理事、羽生田光昭副住職も同席しました。

由悠久会・IKI(以下・角倉一族会、嵐山大悲閣を護る会、吉田光

久会さんの尽力で立派な位牌が出来た。子孫としてありがたい、羽生田住職は「光由さんが一番喜んでおられるのでは」とそれぞれ語りました。

吉田光由は、京都の嵯峨を拠点に医と金融を業とし、本姓が吉田の角倉一族。曾祖父の甥が高瀬川などの開削で知られる了以と徳川家康などに仕えた名医・宗恂。吉田流算術を

3団体で奉納することになったもの。350年遠忌の法要には、吉田・角倉一族のほか、悠久会や嵐山大悲閣を護る会の関係者、和算研究家が参列する予定です。